

江里山を語ろう

だんだんだより



“だんだん”になった田んぼが広がる
みなさんのふるさと“江里山”について
少しお話しませんか

これまでの江里山について
これからの江里山について
“団らん”しながら色々教えてください

そのきっかけづくりとして
みなさんとのコミュニケーション誌
「だんだんだより」を発行しました

みなさんと一つ（団）になって
江里山のことを考えていきたいので
よろしくお願いします

江里山を語ろう

だんだんだより



“だんだん”が広がる江里山で行われた稲刈り体験

2022. | |



小城市牛津産業まつりにて
「江里山の棚田展」を開催します
(場所はセリオ側街道門付近です)

発行
棚田げんきスタッフ
(小城市地域おこし協力隊)



げんきの種まき

(棚田げんきスタッフ活動報告)

2022.9~10

さしみこんにやく作りに欠かせない“ごま殻”。江里山で栽培している量では足りないという声を聞いたので、色々な方に相談したところ、佐賀市のごま農家の方々とつながることができ、ごま殻を譲っていただきました。



軽トラックの荷台いっぱいに積まれたごま殻

2022.10

私が初めて育てたお米は、バインダー&手刈りで収穫しました。



稲が倒伏していて、作業を進めるのもひと苦勞でしたが、みなさんに手伝っていただいたおかげで、無事に稲刈りを終えることができました。

みなさん、温かい目で見守っていただき、ありがとうございました。

2022.10

10月のたなだ部の活動では、サツマイモと落花生を収穫しました。「(量が多く)全部掘れるかなあ」と不安そうな声もありましたが、作業を始めると、あっという間にコンテナがいっぱいに！落花生は塩茹でて食べました。



学生のみなさんの手作り看板！

農村プロデューサー養成講座

を受講しています

農村プロデューサーとして、地域づくりを進める際に必要な様々な手法を体得するために、9月末、研修に参加してきました。山形県西置賜郡白鷹町深山地区を事例にして、地域の現状把握や分析、地域の将来像を実現するための行動計画作成などを実際に経験してきました。この研修に参加して、“江里山の将来像”をみなさんと一緒に考えてみたい！と思ったので、

まずは

座談会をしたいなあ

と思っています。

座談会の詳細は決まり次第ご連絡します

「農村プロデューサー」とは、地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートする人材のことです。

江里山の空に想う

あがんしたか / こがんしたか

江里山のこれからを考えるヒントになる(かもしれない)情報やアイデアをお届けします。

みやま

■ 深山地区の地域づくりの目標 ■

9月末に行われた農村プロデューサーの研修で、事例として取り上げられた深山地区では、2008年に「ふるさとづくり計画書」を作成されています。今回は、その計画書の中で掲げられた“5つの目標”をご紹介します。

1 深山和紙を伝承する

楮畑・ニレ畑を10a整備して原材料を確保。和紙漉き技術習得者の育成10名以上。

2 深山観音堂を保存する

屋根替え資材の茅場を20a整備。

3 来訪者と交流を図る

季節毎の体験メニューを企画・実践。

4 深山らしい景観を創出する

深山地区の統一した「木」や「花」や「色」を決める。地区内の建物の70%以上の屋根色を統一する。

5 地域間交流を図る

そば打ちを通して、愛媛県内子町石畳地区と交流。10名の「そばの匠」を育成する。

みなさんは、棚田が広がる江里山で、どのような暮らしをしたいですか？江里山をどのような地域にしたいですか？みなさんのその思いを、地域内で共有して、一緒により良い地域づくりを進めてみませんか？

江里山画廊

活動中に印象に残ったものを“江里山で出会った一枚”としてご紹介します。

【コメント】

江里山で出会った
今月の一枚

▶ 私が初めて育てたお米の収穫！

脱穀した後のお米の量は、軽トラックの荷台に“こんもり”となるくらいでした。田んぼの広さに対して収穫量が想像より少なく、驚きました。

